

西東京市 図書館だより

平成27年(2015年) 1月15日

第56号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

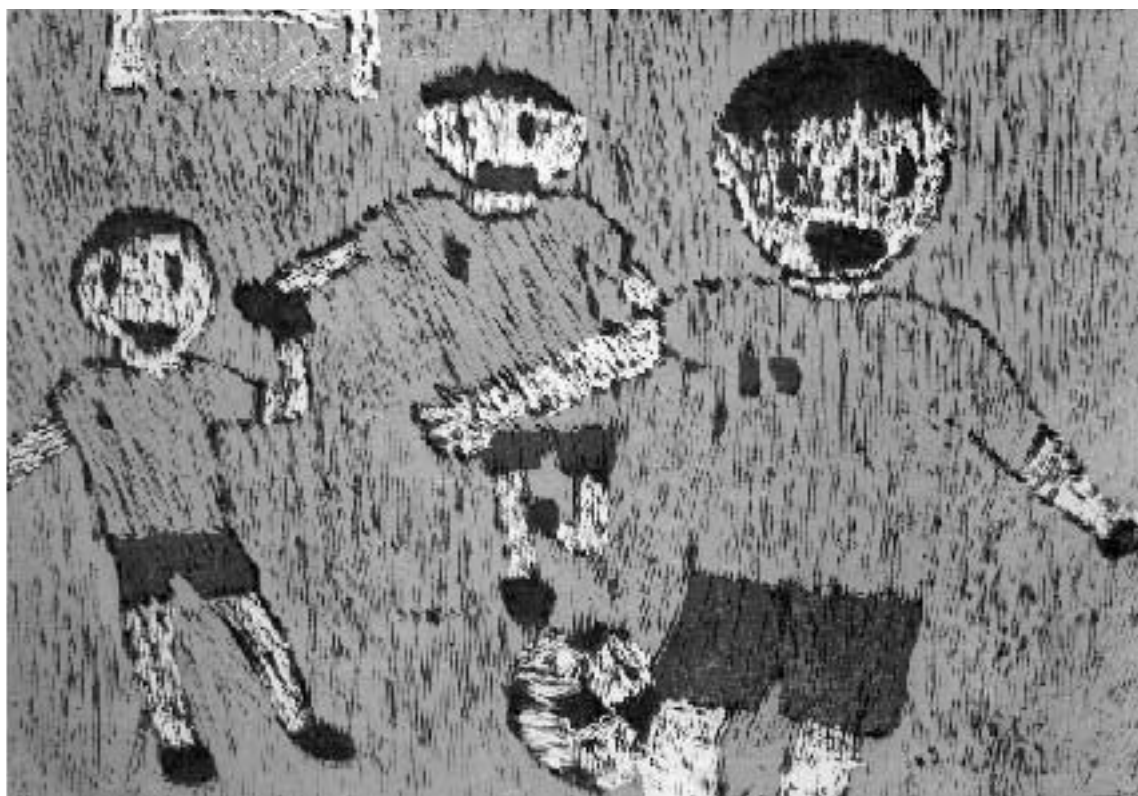
西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



サッカーの試合
保谷第二小学校5年

中間報告を終えて

西東京市図書館では、長期的視点に立った計画的・安定的な図書館運営を進めていくため、市総合計画及び教育計画に基づき、「西東京市図書館基本計画・展望計画」を平成二十一年三月に策定しました。計画期間は十年間ですが、前期五年を基本計画とし、様々な事業を実施してまいりました。

中間年度にあたる平成二十五年度から二十六年度にかけて、前期五年間の実施状況に関する中間報告を行った上で、図書館協議会に事業評価をしていただきました。その概要については三ページに掲載してありますが、評価内容は後期の展望計画に反映させていく予定です。

中間報告を行うなかで再確認したのは、いかにして長い年月をかけて収集、保存し、利用されてきた西東京市民の財産である資料を未来の西東京市民に引き継いでいくかという課題です。そのためには、資料の保存場所を含めた施設の充実が必要です。郷土資料、行政資料等の電子化に取り組む必要があります。これらの課題についても、今後、検討してまいります。

本計画にも明記されていますが、西東京市図書館は、市民ひとりひとりが自ら学び、考え、成長し、決定し、自らの責任で行動するために必要とされる知識や情報を分け隔てなく市民すべてに提供する公共サービス機関です。市民が知識や情報を得ることは、高度情報化社会に生きていくために欠かせないことです。市民の誰もが平等にこの権利を行使できる体制を公的に保障していくことが公立図書館の重要な役割です。高齢社会の進展や子どもの貧困の問題の深刻化、多文化共生社会の実現など取り組むべき課題は多々あります。図書館は日々努力し、市民が自ら学ぶ環境を整えていかなければならないと考えています。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館 ☎421-4545へお問い合わせを

図書館だより版

にんにん西東京



第7回「年中行事いま・むかし」お正月

新しい年の始まり、お正月。元日の朝の凜とした空気に触れると気持ちも改まります。かつて年中行事は、農家の生産や生活の節目であり、神仏の加護に感謝し身体を休める日でした。今回は、郷土資料が伝える、農村だったころの西東京市のお正月をご紹介します。

戦前、田無・保谷の農家では養蚕や農作物の収穫時期の影響で、多くの家がひと月遅れの二月正月を祝っていました。戦後になると、新暦の一月正月が一般的になりました。

暮れの大仕事

お正月を迎える前の大事な暮れの行事の一つに煤払いがありました。昭和初期には「ふれ」が出て、終了後に検査までありました。十二月二十五、六日ごろ家財道具を運び出し、笹竹で作った煤払いほうきで天井から下まで行いますが、一日がかりでも終わらないこともあり。茅葺きの家屋が姿を消した昭和四十年代に、この行事は見られなくなりしました。

さらに大事な行事は餅つきです。十二月八日ごろから三十日ごろまでに済ませます。水稲が少なかつたこ



がんばり会による餅つき(矢ヶ崎要三郎氏宅・昭和54年)

の地域ではオカボ、アワ、キビ、モロコシ等の穀物を単独で、あるいは混ぜて蒸籠で蒸し上げ、杵と臼でつきました。隣、近所、組合、親戚の人々の手を借りて共同で夕方から翌朝にかけて行いました。つき上がった餅は、小豆の餡に絡めたジザイ餅や大根おろしと醤油で絡めたカラミ餅にして食べたり配ったりします。お供え用の二つに重ねた餅(オスワリ)は、大神宮様、荒神様、恵比寿・大黒様、仏壇、床の間等に飾りました。

正月飾りのお札、幣、注連縄等を神社から受ける日を「おかまじめ」といいます(お札のこともいいます)。田無神社では、氏子の一年分の依代(心

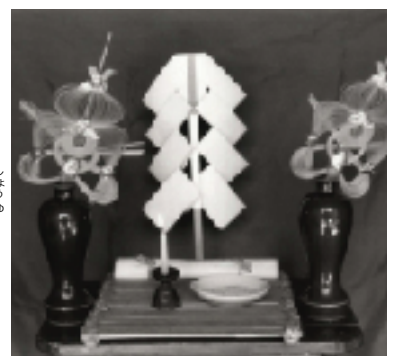
霊の寄りつくもの)を作り、各家に年内中に配りました。神官にとつてこのお札配りはきついものでしたが、後に世話人が神社へ受け取りに行くようになりました。

門松も二十五日ごろから三十日までの間に立てました。人が亡くなつた時に一晩だけいるということから、三十一日に飾りすぐに元旦を迎える「一夜飾り」は避けました。正月飾りは正月七日に取り外した後、お焚き上げをします。子どもたちを中心に「行方塞の神」や「どんど焼き」も同じ行事です。

大晦日のことを「年越し」といいます。この日の夕方、家の主人は祀つてあるすべての神様に灯明とご飯を上げ、神社からいただいたミソカッパライという御幣で家族全員と家屋四方のお祓いをします。夜は午後十一時ごろから元旦にかけて鎮守に初参りに行きます。氏子たちが持ち寄つた古いお札やたるまは境内の一隅でお焚き上げをします。

男衆が雑煮を作るまち

三が日、神棚にお神酒とあかりを上げて雑煮を作るのは、主や跡取り等の男衆の役割でした。女性である年神様がやきもちを焼かないようにするためとも言われます。未明に主人が若水に身を清め、若水を使つて雑煮を作ります。出汁は煮干しやか



正月棚(肥沼三十郎氏宅・昭和52年)

つお節でとり、醤油で味付けしました。餅のほかに里芋、大根、ごぼう、人参、油揚げ、ほうれん草、小松菜等を加えたという家もあれば、里芋、大根くらいで青味等なかつたという家もあります。

元旦から十日ごろにかけて、本家、分家、兄弟姉妹、組合、仲人等お世話になった家が相互に招き合い飲食を共にする「オセチ」と呼ぶ交際がありました。招かれた客は水引をかけた半紙二帖と、お年玉と書いた手拭いを持って訪問しました。子どもたちのお年玉は、半紙二つ折りの中に十銭から二十銭を入れたオヒネリが最たるものでした。

現在も受け継がれている行事はありますが、ご紹介したのは、今から七、八十年前のお正月の様子です。農事暦が生活基盤であった時代で、つらい農作業の節目を迎えるお正月でした。人と人とのつながりはより深く、生き生きと行事を行う姿が見えるように感じます。

西東京市図書館基本計画・展望計画施策事業の中間報告に関する事業評価を実施しました

平成二十五年度は「西東京市図書館基本計画・展望計画」(以下「基本計画・展望計画」)計画期間(平成二十一年度(平成三十年年度)の中間年度に当たることから、例年の事業計画に対する事業評価に代え、基本計画・展望計画についての中間報告を図書館協議会に行い、その内容に対する事業評価を受けました。

基本計画・展望計画は、総論、事業計画、職員組織計画、施設計画の四章から構成されていますが、今回評価対象としたのは事業計画と職員組織計画です。評価項目は、資料計画、サービス計画、職員組織計画の三施策の主な事業を対象とし、各事業に対してA、Dの五段階で評価が行われました。資料計画、サービス計画の評価項目は表のとおりです。評価結果はAないしBでおおむね高評

Table with 3 columns: 施策 (Strategy), 主な事業 (Main Business), 事業内容 (Business Content). It lists various library services and their evaluation criteria.

価をいただきましたが、今後取り組むべき課題も数多く指摘されました。評価の概要は以下のとおりです。

資料計画について

● 評価された主な点
・ 財政事情の厳しい中、資料購入費の維持に努め、前期五年間の平均二万六千冊の受入冊数を確保したこと。

・ 地域・行政資料の整備・充実について、図書館の重点課題として取り組み、十分その成果があらわれていること。

・ デイジー図書作成への積極的、継続的な取り組み。

課題とされた主な点

・ 雑誌のタイトル数の充実。
・ 日本語を母語としない子どもに対する読書環境を整えるための取り組み。

サービス計画について

● 評価された主な点
・ 自動貸出機の導入、自動返却機整備、予約棚の整備、返却ポストの増設など貸出返却サービス環境の整備充実。

「西東京市子ども読書活動推進計画」と連動し、中間報告書を作成するなど推進計画に寄与したこと。
「レファレンス事例データベース」(国立国会図書館)への参加、Web受付の開始など、レファレンスサービスへの積極的な取り組み。
視覚障がい者や来館できない高齢者への宅配サービスの開始。
● 課題とされた主な点
・ 講演会や講座については、市民のニーズを十分に把握して、一層の充実を図ること。
・ シニア世代向けの資料選定の充実。子育て世代・青年層・主婦層・外国人を対象とした新たなサービスの展開。
・ 子ども向け行事の一層の充実。
・ 「絵本と子育て事業」のフォローアップの三歳時検診時の実施。
・ 図書館利用法やレファレンスに関する講座の開催。
● 職員組織計画について
評価された主な点
限られた職員及び嘱託員の体制で、同規模自治体トップレベルの図書館サービスを実施していること。
平成二十四年度から第三金曜日の休館日を利用して職員研修を開催していること。
● 課題とされた主な点
年度ごとの研修計画を立て定期的に実施するとともに、さらに研修

私の唯一の取り柄は活字が好きなことである。読書の大切さをだれかに説かれたり教えられたことはなかったように思う。母親は勉強しろとは言わなかった。俗に子は親の背中を見て育つと言われるが、私の両親や兄弟が読書している姿は記憶にない。家の中には子ども向きの本も大人向きの本もなかった。また、小・中学生のころ本を買って

もらったこともない。著名人のエッセイなどで家に本がたくさんあり、それらを読みながら育ったという文章に接すると、やっぱり名をなした人は家庭環境に恵まれていたという羨望の念もあった。

中学生になつてからだと思うが、姉の借りてきた菊池寛の「第二の接吻」や「真珠夫人」、吉屋信子の「夫の貞操」などを読み、性の秘密に分け入るようなスリル感を味わった。自分では一冊の雑誌も持っていないから、読んでいる本の残りのページ数が少なくなるのをわざとゆくりと読み、読み終わるのを引き



延ばそうとした。

中学校には図書館があった。図書館を利用できるようになったのは太平洋戦争に負けた次の年、一九四六年ころからであった。学校図書館が利用できるようになって初めて人並みの読書ができるようになった。

さて、時間を早送りして舞台を西東京に移す。もっぱらお世話になつて

なっているのは中央図書館で足繁く通う。新刊書のカーポートに気を引く本があれば借りてしまう。まだ手垢のついていない本を先取りするのは宝物を手にするような高揚感がある。

ある日カーポートに江戸屋猫八の著書を見つけた。昔はラジオでものまねをよく聞いた。たかが動物のものまねではないかとみくびっていたが、読んでいくうちに自分が恥ずかしくなった。彼は世界中を股にかけて鳥や獣の声を捜し求め、自分の芸に取り入れているのだ。その研究心、追究心に圧倒された。三代目猫八のものまねを是非聞いてみたい。(最後は猫八のPR?)

成果の上がる内容の工夫を行うこと。

- ・外部研修へのより積極的な参加と職員個々人の自己研鑽を行うこと
- ・各ボランティアに対する研修について、担当職員の養成と、ボランティアの役割に即した研修内容の企画を行うこと。
- ・担当業務のみならず、図書館業務全般や図書館以外の公務全体への視野も広げること。
- ・市民から寄せられた意見(投書などによる)に応える仕組みの検討。

この評価結果をもとに、基本計画・展望計画を見直し、今後の図書館運営に取り組んでまいります。なお、本事業評価の全文は図書館ホームページでご覧いただけます。

新町分室について 利用者説明会を開催します

図書館新町分室は、平成二十七年秋に「新町図書サービス(仮称)」に変更する予定です。サービス内容の変更にあたり、今後の利用についての説明会を左記のとおり開催します。どうぞご参加ください。

日時 1月17日(土)
午後2時~3時

場所 新町福祉会館大広間
問合せ 中央図書館

(042-465-0823)

特別整理休館のお知らせ

所蔵資料の点検・整理のため、左記の日程で休館させていただきます。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

館名	期間
芝久保	1/19(月)~1/26(月)
谷戸	1/26(月)~2/2(月)
柳沢	2/2(月)~2/9(月)
中央・新町分室	2/12(木)~2/18(水)
保谷駅前	2/19(木)~2/25(水)
ひばりが丘	

編集後記

いつも、「図書館だより版」にん西東京」を読んでいただき、ありがとうございます。前号の「ゴジラ」は田無で生まれた」で原作者の香山滋さんが西東京市と深いご縁があったことをご紹介したところ、多くのみなさまから嬉しいお問い合わせをいただきました。中央図書館の近くにお住まいだった香山さん、当時開館していたならばお散歩がてら図書館にも来てくださったかな、などと考えています。

